

●動作確認を行います

⚠危険

安全の為、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。重大事故につながる恐れがあります。

⚠注意

アンサーバックが異なる時は16ページのアンサーを参照して下さい。

⚠注意

キーはACCの位置でシフトレバーを動かして下さい。尚、キーをONの位置まで廻してシフトレバーを動かしてもエンジンは止まりません。

⚠注意

低温時にエンジンが冷えている時2、3回目のリトライでエンジンが始動する事があります。

夏季の高速走行後でエアコンのスイッチを最大にしている時2、3回目のリトライでエンジンが始動する事があります。それらを回避するには「L端子検出へ変更」が必要です。

⚠注意

右に記載している症状は、取付時に発生しなくても、数日～数年後に発生する場合があります。症状が発見された時点で処置して下さい。

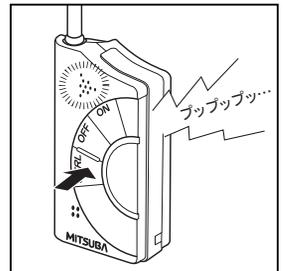
⚠注意

お車の中には（特に走行距離が多い場合）シフト内部のスイッチの摩耗によりシフトが正常に検出出来ない場合があります。その場合はPポジションの配線をして、オートマチック車の登録をやり直して下さい。

STEP-1

- リモコンのCTRLスイッチを短く（1秒以内）押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出し、CTRLスイッチを短く押すと、約3秒間緑LEDが点滅し、スイッチ待ち音「プッププッ…」が鳴り出します。



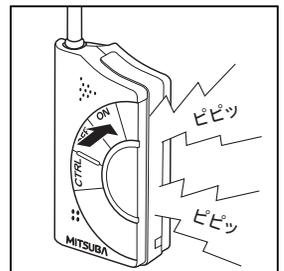
STEP-2

- 3秒以内にONスイッチを押します。

3秒以内にONスイッチを押すと、スタート音「ピピッ」と共に電波を送信します。リモコンが本体からのアンサーバック信号を受信すると、下記のアンサーバックブザー音とLED表示を行います。

ANSWER ← BACK

- ブザー音：ピピッ
- LED表示：青色が点灯し、ゆっくり消灯



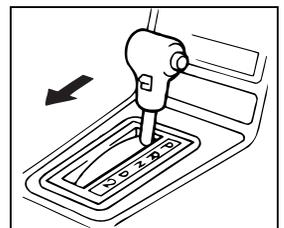
STEP-3

- 車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、まずメーターパネルが点灯します。そして数秒後にセルモーターが廻りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、自動的に再始動（リトライ）し、最大3回のセル駆動を行います。エンジン始動後は、本体から警告音（プッ）が数秒間隔で鳴り始め、アイドルの残り時間に応じて間隔が短くなり、連続音へと変わります。

- シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンを始動させた後、キーを差し込みACCの位置にしてフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。



■動作確認上の不具合に於ける症状別Q&A

症状

- Q. エンジンは始動しているのに、数秒で停止してしまい、自動的に再始動（リトライ）が行われてしまう場合は…。

L端子検出へ変更

- A. エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、11ページの「L端子検出へ変更」を参照して下さい。

症状

- Q. 一部のディーゼル車等で、寒冷時に始動がうまく行われない場合は…。

始動パターン切替

- A. グロー（予熱）時間がたりない事が考えられます。詳しくは、24ページの「グロー時間の切替」を参照して下さい。

症状

- Q. セルモーターの駆動時間が短い為に、1回目のセル駆動でエンジンがかからず、リトライしてしまう場合は…。

セル時間延長

- A. セルモーターの駆動時間を学習させる事が出来ます。詳しくは、25ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

- Q. リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合、又数秒で動作を停止し、再始動を行わない場合、あるいはメーターパネルが一瞬点灯して動作を停止し、警告音が鳴り続ける場合は…。

Pポジション検出

- A. オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、12ページの「Pポジション検出へ変更」を参照して下さい。

OK

以上で動作確認は終了です。